

令和6年度

四日市市幼児教育・保育研究協議会

実施報告書

主催 四日市市幼児教育センター

1 目的

社会状況に鑑み、四日市市の幼児教育・保育の質向上について協議し、保育者の保育力を高め、幼児教育・保育の振興・充実を図る。

2 主催

四日市市幼児教育センター

3 協議会実施経過（日時・場所）

第一回 四日市市幼児教育・保育研究協議会

令和6年6月8日（土）12時45分～13時15分

会場 幼児教育センター第2研修室(橋北交流会館 3階)

(1) 式次第

- ① 開会
- ② こども未来部長挨拶
- ③ 会長挨拶
- ④ 議事
- ⑤ 来賓挨拶(こども家庭庁成育局 教育・保育専門官 鎮目健太氏)
- ⑥ 閉会挨拶
- ⑦ 閉会

(2) 協議事項

- ① 四日市市就学前教育・保育カリキュラムの活用について
- ② その他

(3) 協議会議題

「四日市市就学前教育・保育カリキュラム発刊」からのスタート
～四日市市のよさをいかした教育・保育をめざして～

(4) 設定理由

現 状

政府は、令和5年12月子ども基本法に基づく「こども大綱」及び、「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）」こども未来戦略を閣議決定しました。

令和5年6月16日には、第4期教育振興基本計画（令和5年度～9年度）を閣議決定し、これらに共通することは、いまさら、いうまでもなく Well-being な生き方の追求です。経済だけではなく「こころ」の充足、生活への評価・感情・価値、健康まで含めて捉え、自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む街・国が、どのようにすれば「良い状態」でいられるのかについて考えることが求められています。

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づく Well-being を教育の場で実現していくことをめざしています。

就学前教育・保育においては、非認知能力の育ちが子どもの Well-being を支える領域の一つとして位置付けられ、こどもの遊びが学びであり、こどもの育つプロセスを大切にし、そのプロセスをつなげることが重要です。

国の提言・社会の要請

OECD（経済協力開発機構）の「Learning Compass2030（学びの羅針盤2030）」では、個人と社会の Well-being は「私たちが望む未来（Future We Want）」であり、社会のウェルビーイング Well-being が共通の「目的地」とされている。

2030年までの世界の行動指針であるSDGsの17項目の一つに「Good Health and Well-Being（すべての人に健康と福祉を）」が掲げられている。価値観が変化したことにより Well-being への注目が高まり、経済的な豊かさだけでなく将来そして社会全体の幸福度とは一体何かを考えることがより重要視されている。

四日市市幼児教育センターの課題

本市の就学前の子どもに対する就学前教育の質の向上を図るため、子どもが権利主体であるということをもう一度問い直し、教育・保育の中でどのように示されていくべきか、よっかいちのよさをいかした「子ども主体の教育・保育」について話し合っていく。不適切な保育が大きな社会問題となっている中で、個々の主体性や個性が尊重されることがますます重要な時代になってきています。子どもの権利の「意見表明権」について、保育の中でどれほど保育者が意識し、尊重しているか考え合いたいと思います。そして、子どもの年齢ごとの成長を見通し、教育的観点から重要となる学びや体験を体系的に示した、四日市市就学前教育・保育カリキュラムを作成し、幼児教育センター運営に活用することが必要です。

検討すべき課題

- 四日市市の子どもたちが安心して就学前教育・保育を受けることができるように保育環境を整え、市・各施設・関係機関が連携・協力をしながら子ども主体に考えた保育を進めていくにはどうすべきか。
- 新教育プログラムの6つの柱のそれぞれの基礎となる就学前教育・保育において、遊びや生活を通しての姿を小学校に伝え、つながりを意識して取り組み、学びの「連続性」「一貫性」のある指導・連携を図るにはどうすべきか。
- 園と保護者が安心し、信頼感をもって教育・子育てにおいて、ともに力を合わせて子どものよりよい成長を考えられるよう、密な連携・協力をしながら進めていくにはどうすべきか。

認識の共有化「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」

- ◇ 四日市市就学前教育・保育カリキュラムは、本市の就学前教育・保育施設で働く保育者が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮して指導を行う際の指針とします。
- ◇ 就学前教育・保育カリキュラムに基づいた指導を行うことにより、
 - (1) 人生の学びの土台となる資質・能力を段階的に育みます。
 - (2) 3つの力(すこやか・つながり・まなびのめばえ)の育成を通じて、非認知能力を高めます。
 - (3) 就学前教育・保育から学校教育への円滑な接続を図ります。

第二回 四日市市幼児教育・保育研究協議会

令和 6年8月26日(月)15時00分～16時00分

会場 幼児教育センター第2研修室(橋北交流会館 3階)

(1) 式次第

① 開会

② 保育幼稚園課長挨拶

③ 来賓挨拶(国立教育政策研究所幼児教育センター

副センター長 掘越紀香氏)

④ 議事

⑤ 閉会挨拶

⑥ 閉会

(2) 協議事項

① こどもを主体とした教育・保育の推進について

② 四日市市のよさを活かした教育・保育について

③ その他

(3) 協議会議題

「四日市市就学前教育・保育カリキュラム発刊」からのスタート
～四日市市のよさをいかした教育・保育をめざして～

(4) (設定理由)

現 状

令和5年6月16日、第4期教育振興基本計画(令和5年度～9年度)、さらに、令和5年12月子ども基本法に基づく「こども大綱」及び、「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン(はじめの100か月の育ちビジョン)」「こども未来戦略」を閣議決定しました。

これらに共通することは、いうまでもなく Well-being な生き方の追求です。経済だけではなく「こころ」の充足、生活への評価・感情・価値、健康まで含めて捉え、自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む街・国が、どのようにすれば「良い状態」でいられるのかについて考えることが求められています。

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づく Well-being を教育の場で実現していくことをめざしています。

就学前教育・保育においては、非認知能力の育ちがこどもの Well-being を支える領域の一つとして位置付けられています。

国の提言・社会の要請

OECD(経済協力開発機構)の「Learning Compass2030(学びの羅針盤2030)」では、個人と社会の Well-being は「私たちが望む未来(Future We Want)」であり、社会のウェルビーイング Well-being が共通の「目的地」とされている。

2030年までの世界の行動指針であるSDGsの17項目の一つに「Good Health and Well-Being(すべての人に健康と福祉を)」が掲げられている。価値観が変化したことにより Well-being への注目が高まり、経済的な豊かさだけでなく将来そして社会全体の幸福度とは一体何かを考えることがより重要視されている。

四日市市幼児教育センターの課題

本市の就学前のこどもに対する就学前教育の質の向上を図るため、こどもが権利主体であるということをもう一度問い直し、教育・保育の中でどのように示されていくべきか、「こども主体の教育・保育」について話し合っていきます。

こどもの権利の「意見表明権」について、教育・保育の中でどれほど教育・保育者が意識し、尊重しているか考え合いたいと思います。そして、こどもの年齢ごとの成長を見通し、教育的観点から重要となる学びや体験を体系的に示した共通カリキュラムを作成し、幼児教育センター運営に活用することが必要です。

検討すべき課題

- 四日市市のこどもたちが安心して就学前教育・保育を受けることができるように環境を整え、市・各施設・関係機関が連携・協力をしながらこども主体の教育・保育を進めていくにはどうすべきか。
- 新教育プログラムの6つの柱のそれぞれの基礎となる就学前教育・保育において、遊びや生活を通しての姿を小学校に伝え、つながりを意識して取り組み、学びの「連続性」「一貫性」のある指導・連携を図るにはどうすべきか。
- 園と保護者が安心し、信頼感をもって教育・子育てにおいて、ともに力を合わせてこどものよりよい成長を考えられるよう、密な連携・協力をしながら進めていくにはどうすべきか。

認識の共有化「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」

- ◇ 四日市市就学前教育・保育カリキュラムは、本市の就学前教育・保育施設で働く保育者が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮して指導を行う際の指針とします。
- ◇ 就学前教育・保育カリキュラムに基づいた指導を行うことにより、
 - (1) 人生の学びの土台となる資質・能力を段階的に育みます。
 - (2) 3つの力(すこやか・つながり・まなびのめばえ)の育成を通じて、非認知能力を高めます。
 - (3) 就学前教育・保育から学校教育への円滑な接続を図ります。

第三回 四日市市幼児教育・保育研究協議会

令和 7年1月16日(木)15時00分～16時30分

会場 幼児教育センター第2研修室(橋北交流会館 3階)

(1) 式次第

- ① 開会
- ② 会長挨拶
- ③ 議事
- ④ 閉会挨拶
- ⑤ 閉会

(2) 報告事項

- ① 令和6年度 公開保育(研究)実践検討会報告

(3) 協議事項

- ① 安心と挑戦の循環を保障する教育・保育について
- ② 四日市市就学前教育・保育カリキュラム活用版(素案)について
- ③ その他

3) 協議会議題

「四日市市就学前教育・保育カリキュラムの活用の具体化」に向けて
～四日市市のよさをいかした教育・保育をめざし、「安心」と「挑戦」の循環を考える～

(4) 設定理由

現 状

令和6年 10月、文科省「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等のあり方に関する有識者検討会 最終報告」が示された。報告書のはじめに「幼児教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることや、0歳から 18 歳の子供の発達や学びが連続していることを踏まえ、家庭や地域の状況に関わらず、全ての子供が格差なく質の高い学びを享受でき、その後の学びへと接続できるよう、幼児期及び幼保小接続期の教育の充実を図ることが必要である。また、児童の権利に関する条約及びこども基本法を踏まえ、子供の権利利益の擁護を図り、その最善の利益を実現できるよう教育に取り組むことや、2040 年以降の社会を見据え、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育成する観点からの更なる教育の充実も必要となっている」とあります。

また、こども家庭庁の「全てのこどもの誕生前から幼児期までの育ちの質の保障と向上を図ることを目的に、基本的な考え方を示した「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン『はじめの 100 か月の育ちビジョン』(令和5年 12 月 22 日閣議決定)」において、地方自治体における幼児教育と保育の担当部局の一元化や幼児教育センターの設置促進などの取組が進められてきた。」とあります。

就学前教育・保育を通して育ちつつあるこどもの姿を一貫した育ちとして保障するため、就学前教育・保育と小学校教育との接続が重要であると捉えます。こどもの遊びが学びであり、こどもの学びのプロセスが、小学校以降の主体的・対話的で深い学びにつながることを示されたものだと思います。

国の提言・社会の要請

全ての幼児に格差なく質の高い幼児教育を保障し、幼児一人一人のよさや可能性を伸ばしながら、生涯にわたる生活や学習の基盤となる生きる力の基礎を育み、それぞれが人生においてウェルビーイングの向上を実現していくことができるようにすることが必要

(今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会 最終報告<概要>)

「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める

こどもは、おとなとの「アタッチメント(愛着)」「安心」を土台として、「遊びと体験」「挑戦」を繰り返しながら成長していきます。

こどもが不安なときなどに、保護者や保育者などの身近なおとなに寄り添ってもらう経験を繰り返す中で、「アタッチメント(愛着)」が形成されていきます。この「アタッチメント」を土台に、様々な人や環境と関わる中で、こどもは豊かな「遊びと体験」を通して、自分の世界を広げていきます。この「安心と挑戦の循環」が、乳幼児の成長においてとても大切です。

(こども家庭庁「はじめの100か月ビジョン」専門職の方に向けた研修ガイドより)

四日市市幼児教育センターの課題

本市の就学前の子どもに対する就学前教育の質の向上を図るため、こどもが権利主体であるということをもう一度問い直し、教育・保育の中でどのように示されていくべきか、よっかいちのよさをいかした「こども主体の教育・保育」について話し合っていきます。不適切な保育が大きな社会問題となっている中で、個々の主体性や個性が尊重されることがますます重要な時代になってきています。こどもが主体として自発的に環境にかかわり、遊びだす姿を「安心と挑戦の循環」をキーワードに考え合いたいと思います。そして、子どもの年齢ごとの成長を見通し、教育的観点から重要となる学びや体験を体系的に示した、四日市市就学前教育・保育カリキュラムを四日市市の保育者一人ひとりが活用できるようにし、幼児教育センターが様々な組織、関連機関のハブとなれるように推進を目指していくことが課題です。

検討すべき課題

- 四日市市のこどもたちが安心して就学前教育・保育を受けることができるように保育環境を整え、市・各施設・関係機関が連携・協力をしながら子ども主体に考えた保育を進めていくにはどうすべきか。

また、就学前教育・保育における遊びや生活を通しての姿を小学校に伝え、つながりを意識して取り組み、学びの「連続性」「一貫性」のある指導・連携を図るにはどうすべきか。

今年度、公開保育(研究)実践検討会(別紙資料あり)をもとに、

- ◇ 就学前教育・保育の見え方、考え方の共通理解を図るため、各施設学校種を越えた参加者の意見交流について検討する。
- ◇ 各施設の状況を踏まえ、幼児教育センター主催研修の改善等に対する意見を集約し、就学前教育・保育の質向上に向けた往還的研修の方向性を検討する。

認識の共有の具体化「四日市市就学前教育・保育カリキュラム活用版」

- ◇ 四日市市就学前教育・保育カリキュラムが、四日市市の保育者一人ひとりにとって、身近で分かりやすく、実践に活かしていくことができるものとしていきます。
 - (1) 活用版では、視覚的情報をコンパクトにまとめ、こどもの発達における「安心と挑戦の循環」を踏まえ、実践を通して保育者間で就学前教育・保育について語り合い、3つの資質・能力の育ちのプロセスを明らかにしていきます。
 - (2) カリキュラムの視点である「すこやか」「つながり」「まなびのめばえ」の3つの力について、活用版に、情報を具体化し、こどもの活動に活かしていくことで、こどもの姿・保育者のかかわり・環境について、振り返りと学びを深めていきます。
 - (3) 就学前教育・保育から学校教育へのつながりを高めていきます。



4 参加者

学識経験者、幼稚園・こども園・保育園・地域型保育施設関係者、教育委員会、行政関係者等、他 約10名(委員会名簿を最終ページに添付)

5 要綱について

四日市市幼児教育・保育研究協議会設置要綱

(趣旨)

第1条 市内の公私立の幼稚園・保育園・認定こども園・地域型保育施設等幼児教育・保育に携わる関係者と学識経験者が集まり、幼児教育・保育の振興に向けた調査研究を行うため、四日市市幼児教育・保育研究協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(研究事項)

第2条 協議会は、幼児教育・保育に関する基本的事項をはじめ、本市の幼児教育・保育にとって必要となる今日的課題を踏まえた事項について調査研究を行うものとする。

(構成)

第3条 協議会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) 幼稚園関係者
- (3) 保育園関係者
- (4) 地域型保育施設関係者
- (5) 教育委員会及び行政職員
- (6) その他協議会が必要と認めるもの

(会長)

第4条 協議会に会長を置く。

- 1 会長は、委員のうちから互選する。
- 2 会長は、協議会の会務を総理する。
- 3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名した者が会長代行として、その職務を代理する。

(協議会の招集)

第5条 協議会は、市こども未来部長が招集する。

(意見聴取)

第6条 協議会は、必要があると認めたときは、関係者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、市幼児教育センターにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、市こども未来部長が定める。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

添付 名簿

令和6年度 四日市市幼児教育・保育研究協議会委員名簿（敬称略）

選任区分	氏名	職名
学識経験者	富田 昌平	三重大学教授
	水津 幸恵	三重大学准教授
幼稚園 保育園 こども園 地域型保育施設 関係者	松永 高弘	三重県私立幼稚園・認定こども園協会理事 四日市私立幼稚園協会会長（あおい学園園長）
	林 秀典	四日市私立保育連盟会長（河原田保育園園長）
	藤谷 俊文	三重県保育協議会元会長（まちなかフジ保育園園長）
	山内 祥代	四日市市公立園長会会長（四日市市立泊山幼稚園園長）
教育委員会 行政関係者	草川 誠	四日市市教育委員会指導課課長
	大熊 雅教	四日市市教育委員会指導課指導主事
	服部 由香	四日市市こども未来部保育幼稚園課副参事 兼課長補佐兼指導係長 こども施設再編推進室 室付主幹
	山本 直子	四日市市こども未来部保育幼稚園課副参事 兼課長補佐 こども施設再編推進室 室付主幹

事務局名簿

事務局	氏名	職名		
	廣田 厚史	四日市市こども未来部保育幼稚園課参事兼課長	四日市市諏訪町 1番5号	059- 354- 8104
	藤原 良美	四日市市幼児教育センター所長	四日市市東新町 26-32	059-333 -6002
	市川 春子	四日市市幼児教育センター所付 主幹		